國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

「研究動向」企画について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星野, 靖二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000599

「研究動向」企画について

本誌では次頁以降、宗教研究の、ある特定の分野についての研究動向をまとめた研究ノートを５本掲載している。これらを印刷物として、またウェブ上で公開することには公益性があると信ずるが、この新たな「研究動向」企画を立ち上げた背景について、若干の説明をしておきたい。

個々の「研究動向」は日本文化研究所の研究員（客員研究員、ポスドク研究員、研究補助員）に執筆を依頼したもので、日本の宗教研究――「日本の宗教」研究か、日本の「宗教研究」かを問わず――に何らかの形で関連させてほしい旨を伝えた上で、テーマの設定は各研究員がそれぞれ行った。そのため、もともと企画として取り扱うテーマの体系性や網羅性を考えていたわけではなく、むしろ各研究員の問題関心がよく窺えるまとめになっているだろう。

その意味で、これらの「研究動向」は各研究員の研究紹介にもなっており、またそのように読まれることも期待している。執筆者の研究分野や業績については、本誌後掲「スタッフ紹介」もご参照頂きたい。

しかしながら、そもそも「研究動向」である以上、研究状況を俯瞰的に見渡した記述であることは前提となる。各研究員が、取り上げた分野の最前線に立つ研究者として、広く目を配りながら、これらの「研究動向」を執筆していることはいうまでもない。

こうした研究動向についての情報は、コロナ以前の状況であれば、研究会や学会等で、近い関心を持つ研究者たちと交流することによって得られた面があったが、残念ながら今般の状況では、必ずしもそのようになっていない。本「研究動向」企画は、これを何ほどか補うことをも目的としている。

もちろん、このように文字化して公開されたものが、即、対面での交流の代替物になるとは考えていない。しかし同時に、単に消極的な代替手段であるというだけではなく、例えばアクセスのしやすさについては、明確に優位性があるだろう。

そして、そうであるが故に、これらの「研究動向」は、隣接分野の研究者や、あるいは日本国外の研究者、またふと本誌を手に取ったり、ウェブ上の検索でたどり着いたりした者たちにも開かれているのであり、何か有益なものとしてそれらの読み手たちに読まれることを期待している。

（星野靖二）